



東京総会の会場サンミ高松7丁目店



紫雲会東京

平成24年（2012年）

第6号

発行者 紫雲会東京支部長 安西 愈
印刷所 (有)ひまわり印刷



奈良 計男 高松商業高校校長ご挨拶



真鍋 健彦 紫雲会会長ご挨拶



安西 愈 東京支部長ご挨拶

東京支部総会
平成23年度



乾杯 溝渕 利幸 最高顧問



「コンサート」 熱唱するmimikaさん(H16年卒)



卒業50年を迎えてS36年卒の皆様



にこやかにサイン mimikaさん

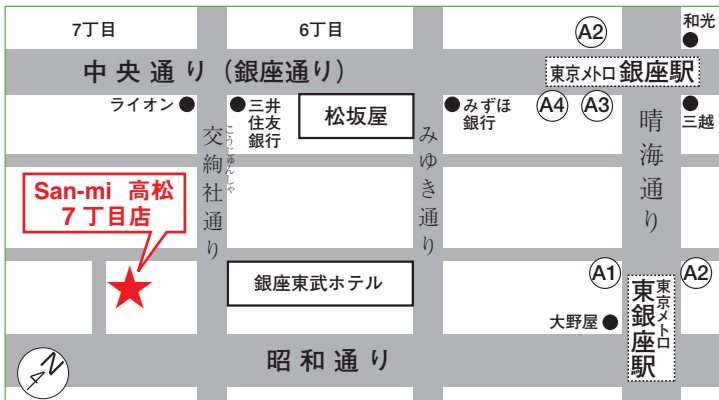
平成23年度支部長表彰
歌人 福家貴美さん(S35年卒)



ファミリーで楽しく歓談

サンミ高松7丁目店案内地図

最寄駅：東銀座
(都営浅草線・日比谷線)



平成24年度東京支部 総会のご案内

7月7日(土) 12:00

(受付:11時00分より)

場所：サンミ高松7丁目店

東京都中央区銀座7-13-20

会費：男 性 7,000円

女 性 5,000円

29歳まで 5,000円

20歳まで 無 料

当日電話 03-3546-8182

問い合わせ先電話 03-5568-3320

高松商事(株)内 紫雲会東京支部

事務局 漆原慎二

会費納入のお願い Ⅱ 紫雲会東京支部は皆様の会費で運営されています。皆様、会費のお振込をお願い致します。

100% 電気自動車 日産リーフ



香川日産自動車株式会社

〒760-0072 香川県高松市花園町1丁目1番8号 ☎0120-230057

www.kagawa-nissan.co.jp/

安西法律事務所

弁護士 安西 愈

(S32年卒)

〒104-0061

東京都中央区銀座3丁目4番地1号大倉別館3階

TEL 03-3563-3225~7

FAX 03-3561-2446

創業37年 個を大切にしたいマイレストラン

日本料理・イタリア料理・フランス料理

ご家族でのご会食、同窓会、クラス会等のお集まりにご利用ください。
お人数様に合わせた洋風、和風の個室もご用意いたしております。



代表取締役会長 溝渕 利幸 (昭和28年卒)

銀座 Sun-mi 本店

〒104-0061 東京都中央区銀座6-3-9
TEL.03-5568-3300 (総合受付)

銀座 並木通り店・銀座 7丁目店・横浜 伊勢佐木町店

平成23年度

東京支部活動報告

平成23年度支部活動は、前年の定期総会で議決された活動計画に沿い、支部会員の皆様のご支援ご協力をいただき計画どおりに達成することが出来ました。

7月2日には第78回東京支部定期総会を開催し、127名（会員118名、来賓9名）の出席をいただき、有意義な総会となりました。また、母校出身の若手シンガーソングライター・ミミカさんこと（H16年卒）溝渕美佳さんの元氣な歌声が、総会会場を一層盛り上げました。

組織を充実するため、理事9名、常任理事1名を選任し、また、2委員会を統合して総会委員会とし、会報委員会、年次幹事委員会と呼称変更するとともに、ホームページ委員会及び80周年記念事業プロジェクトチームを新設しました。

親睦・交流事業は、第6回東京支部ゴルフ大会を10月4日にCPGカ

平成23年度

付議事項

紫雲会東京支部 平成23年度 会計報告			
(期間:平成23年4月1日～平成24年3月31日)			
収 入		支 出	
前年度繰越	538,457	総会費用	1,076,463
総会会費	778,000	事務消耗品・通信費	57,793
男 @7,000×99名	693,000	旅費交通費	88,650
女他 @5,000×17名他	85,000	慶弔	45,124
お祝い金	30,000	振込負担金	43,520
役員年会費	418,000	会議費補助	353,465
一般会費	361,000	役員会(1回)	124,500
23年度 会報賛助金・広告代	386,000	常任理事会(1回)	33,730
24年度 会報賛助金・広告代	128,000	年次幹事会(1回)	58,000
本部補助金	300,000	各委員会(20回)	137,235
チャリティーオークション	94,750	各委員会助成金	40,000
寄付金	76,050	会報発行費	378,116
受取利息	45	HP経常費用	39,795
		義援金	94,750
		事務局費	50,000
		基金 80周年記念	50,000
		次年度繰越	792,626
計	3,110,302	計	3,110,302

*役員会・常任理事会・年次幹事会の出席者は会議費の半額と交通費全額を負担

*常任理事会は2回開催、補助は1回のみ

*各委員会の出席者は、交通費全額を負担

<総会費用>

料理 @5250×124名 651,000

ドリンク @1575×126名 198,450

サンドウィッチ 13,125

来賓土産代 16,800

懇談軽食代 12,600

小計 891,975

演奏代 30,000

ビンゴ景品 27,850

会員作品展 61,730

総会出欠はがき受取人払 23,010

その他 41,898

合計 1,076,463

<会報発行費>

用紙・印刷代 283,500

会報送付費 77,774

アドレスシール等 16,842

合計 378,116

<80周年記念基金>

累計 100,000

平成23年度の付議事項は、報告事項5件、議決事項14件、承認事項1件、その他1件、総会に付議された事項の決議事項の

内容は、1. 平成22年度会計報告及び会計監査報告 2. 平成23年度事業に関わる予算 3. 副支部長辞任（2名）、顧問就任（1名）、副支部長候補（3名）、新理事候補（9名）、新常任理事候補（1名）選任の件 4. 支部長・支部長代行の任期1期3年続投の件、理事任期の2年重任の件 5. 会則、細則改定の件

報告事項は（敬称略）、1. 常任理事会の下部組織のうち、2委員会を統合し「総会委員会」とし、また「会報委員会」と「年次幹事委員会」に呼称変更、ホームページ委員会と80周年記念事業プロジェクトチームを新設 2. 10月4日にCPGカン

トリークラブで、第6回ゴルフ会開催 3. 10月23日に「小江戸川越散策」を実施 4. 「紫雲会東京」会報5号を5月末に発行送付しました

5. 東京香川県人会では紫雲会より、池田政廣常任理事を同会理事候補として推薦し、その後の、東京香川県人会総会にて承認されました

6. 年次幹事会を5月21日に開催 7. 文化部門で福家貴美を表彰 8. 紫雲会東京支部総会を7月2日に開催 9. 紫雲会東京支部「ホームページ」を4月に立ち上げました。

家光公誕生の間・お局様化粧部屋も

観て来ました！

親睦・交流委員長 S 34年卒 山中イツ子

23年度の親睦・交流会は10月23日（日曜日）「小江戸川越散策」日帰りバス旅行を実施。当日は心配していた空模様も 散策に相応しい薄雲りとなり 昨年度の嵐を思い出し安堵しました。参加者は24名。池袋に集合の後、予定通り 貸し切りバスにて川越に到着。当地にてシルバーガイドさんの説明を受けながら 午前→喜多院・中院→仙波東照宮→喜多院（山門・客殿・本殿・五百羅漢）→ 昼食（幸すし・寿司膳）



午後↓川越城・本丸御殿↓蔵の街散策・大沢家・蔵造り資料館↓祭り会館・お囃子見物↓蔵の街・蔵三軒↓時の鐘・菓子屋横丁散策の後往路同様貸し切りバスにて 川越発16：30↓池袋駅着18：00。

今回は日曜日実施と云うこともあり、在職中の方々や、初参加の方、気軽に参加されて一段と和やかな雰囲気になりました。秋の一日を徳川家光公誕生の間や、春日の局の化粧の間など貴重な建造物の「喜多院」、蔵造りの懐かしい町並みを散策し、名物のいも菓子をお土産に買い求めたり。:

川越観光ガイド（石橋重厚）さんの熱意に満ちた案内を受けながらの「小江戸川越散策」、関東近郊の歴史をより深く触れる有意義な一日でした。卒業年度別参加者数は次の通りです。

32年卒3名・33年卒7名・34年卒3名・35年卒1名・36年卒2名・38年卒1名・39年卒2名・40年卒3名・52年卒1名・他校 1名 計 24名

平成23年度第6回

ゴルフ大会のご報告

親睦・交流委員長 S 32年卒 片岡英明

願ってもない秋晴れのもと、第6回紫雲会ゴルフ大会を開催しました。10月4日（火）、市原CPGカントリークラブに18名全員集合しINからスタート。昨年の雨天のなかでの苦闘に比

べ、誠に最高のゴルフ日和。スコアも大幅に改善されると期待されました。ところが結果は意外や意外！前回平均グロス100.0、今回100.5でした。平均約1才加齢した結果劣化したものと推察されます。とは言え、プレイは皆さん充分に楽しめたものと思われまます。成績は優勝者がグロス95、HDCP 22、NET 72、2の全く同じ方が31年卒の北林道生さん、同じく31年卒の佐々木清さんの2名、奇跡のよう

なことが起こりました。お二人でご相談の結果、少し早くお生まれになられた北林さんが優勝、佐々木さんが準優勝となりました。ベストグロスはには40年卒の太田正輝さんがグロス86の好スコアで獲得しました。3年連続優勝が期待された大野勲さん（32年卒）は惜しくも4位と3連覇の夢はかないませんでした。



でした。

支部からの支援金、支部長からの多額のご祝儀、北條さんご手配の株主優待券による大幅なプレイ代ダウン等があり、参加費は10,000円で済み、かつ次回繰越金が44,590円も残りました。関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

順位	氏名	グロス	HDCP	NET
優勝	北林道生 (31年卒)	95	22	72
準優勝	佐々木清 (31年卒)	95	22	72
3位	北條 勇 (39年卒)	87	12	75
B G	太田正輝 (40年卒)	86	8	77

行ってきました！

「川越散策」

S 52年卒 榎谷昌彦

平成23年度紫雲会親睦・交流会として10月23日（日曜日）に「小江戸川越散策」日帰りバス旅行が行われました。いつもは平日開催だったので私は参加を見送っていましたが、今回は日曜日でしたので初参加いたしました。当日朝、集合場所の池袋で参加者名簿をみると、皆さん私より10歳以上年長の大先輩の方々ばかりで、50歳を過ぎた私が飛び抜けて若い（？）ことが判明し、やや緊張の中、出発

さてバスは参加者24名を乗せて川越へ。現地ではシルバーガイドさんの案内で喜多院付近から順次回りました。このガイドさんが博学で説明が行き届いており、午前中は喜多院中院、仙波東照宮、喜多院山門・客殿・本殿、五百羅漢などを回ったのですが、どこでもガイドさんのおかげで、普通なら知らずに過ぎるところを詳しい解説のおかげで豊富な知識を得ることが出来ました。

昼食は幸すしにて会席膳を味わい、午後は、川越城・本丸御殿、三芳野神社（「とりやんせ」発祥の地）を回った後、川越まつり会館にてお囃子を見学しました。私は川越まつりがこれほど賑やかなまつりで、豪華絢爛な山車がたくさん出ることを初めて知りました。その後は蔵の街を散策。時の鐘を見に行ったり菓子屋横丁を散策したりしました。川越はさすが小江戸といわれるだけあって江戸の面影を色濃く残している良い街でした。

帰りのバスの中では自己紹介・近況報告で盛り上がりました。同郷で同じ高商出身ということから、私もすぐ打ち解けることができました。本当に楽しいバス旅行でした。幹事の皆様に改めて感謝いたします。紫雲会親睦のバス旅行には若い人たちも思い切つて参加されることをお勧めします。大先輩の方々とは知り合いになれて楽しいですよ。

平成24年度表彰者のご紹介

囲碁と出会って半世紀

S 37 年卒 小田良三



私が囲碁に興

味を持ったのは
何時頃だったか
はつきりした記
憶はありません

生 のときには大人に交じって碁を
打っていましたので恐らく小学校 4
年生の頃だと思っています。

今では小学生の囲碁大会が催され
テレビなどで放映されていますが、
当時は小学生で碁を打つのは珍しい
時代でした。

私が囲碁に興味を持ったきっかけ
は、父が囲碁好きであったことから
近所の囲碁好きの仲間を自宅に呼ん
で碁を打っていたのを学校から帰っ
た私が兄二人と熱心に見ていたこと
が始まりだったと思います。

そのうち兄弟で碁を打つようにな
り、いつしか近所の囲碁好きの大人
と対戦するようになった。

囲碁の大会に本格的に参加したの
は、高商に入学してからですが、1
年の時毎日新聞社主催の「アマ本因
坊戦香川県大会」で優勝、香川県本
因坊となりました。一番印象に残っ
ているのは大学時代の昭和40年、
朝日新聞主催の「第2回全日本朝日
学生囲碁十傑戦」で全国優勝を果た
した大会です。また、この年から開
催された「日韓学生囲碁対抗戦」の
日本代表として参加し、日韓学生の
友好交流にも努めました。振り返れ
ば碁を始めてからあつという間に半
世紀が過ぎました。

定年退職してからは地域のボラン
ティア活動に参加し、小中学生を対
象に囲碁の指導をしてきました。こ
の生徒のうちから将来の囲碁界を背
負う人材が出ることを大いに期待し

ているところです。また、町内会や

会社のOB会に囲碁教室を開き、指
導に当たっています。ここまでやつて
来られたのも、素晴らしい仲間に巡
り合えたことだと感謝しております。

●小田良三さんのプロフィール

小田良三氏（囲碁アマチュア6段）は小
学生から囲碁を始め、高商一年の時に『アマ
本因坊香川県大会』で優勝し、三段を授与さ
れました。その後も全日本学生囲碁戦、企業
対抗戦、各地名人戦で活躍し、輝かしい成績
を残されました。近年は地元や都内でボラン
ティアの囲碁教室を開き、後進の指導と地域
の活動に貢献されています。

トピックス

スポーツ情報

会報委員 S 33 年卒 中西 勲

①春の高校バレーに高商女子出場
第64回全日本バレーボール高等学
校選手権大会が、平成24年1月5日
から東京体育館で開催され母校の女
子バレー部が出場しました。

戦績は1回戦「都城商（宮崎）」
と対戦し2対0と快勝、翌日の2回
戦では全国大会優勝の実績もある、
山口県の強豪「誠英」と対戦、セッ
トカウント0対2と善戦しましたが
惜敗しました。なお、1、2回戦と
も紫雲会東京支部有志による応援団
が結成され、延30名（女性10名）の
会員が野球部OB杉ノ内さんのリー
ドで「赤いジャンパー」を着て、力
一杯応援しました。

また、大会前日の1月4日紫雲会
東京支部の「安西支部長・榎本支部
長代行・常任理事の安西 彰・中西
氏」の4名が宿舎を訪問、植松監督
及び選手の皆さんとお会いして激励
すると共に、東京支部と支部有志か
らの「御祝い金」を贈呈致しました。

（8面に写真掲載）

②全国高等学校柔道選手権大会に

高商男女個人・女子団体戦出場

第34回全国高等学校柔道選手権大
会が平成24年3月19日～20日、日本

男樹郎

計裕敏

良西本

奈小山

長諭

校長

校教

校母

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

来賓

平成23年度 紫雲会東京支部総会 出席者名簿

卒業年度	氏名	卒業年度	氏名	卒業年度	氏名
昭和 28年	佐々木 清	昭和 35年	補 昭次郎	昭和 43年	岩井 忠照
28年	上田 康夫	35年	久保 祐三	43年	曾野 博幸
28年	◎ 瀧淵 利幸	35年	◇ 高島 保	43年	藤木 康男
29年	◇ 内海 昭夫	35年	◇ 多田 輝雄	43年	森 克己
29年	◇ 鍋井 久信	35年	◇ 宮本 安洋	46年	串田 裕司
29年	三宅 寿美夫	35年	◇ 福家 貴美	46年	松本 裕美
29年	平田 久子	36年	◇ 川西 憲造	47年	浜口 幸治
30年	片岡 一喜	36年	◇ 黒川 達夫	48年	◇ 三村 圭介
31年	佐々木 清	36年	◇ 鈴木 芳徳	50年	滝 健一
31年	◇ 宇田川 四郎	36年	☆ 遠田 貞男	51年	今雪 博司
31年	◇ 佃 昭幸	36年	◇ 太山 喜代一	51年	岡田 重美
31年	◇ 箭井 文男	36年	◇ 穂立 弘道	51年	◇ 萬納 宏俊
31年	松本 篤	36年	◇ 長尾 一郎	52年	◇ 秋山 典久
31年	山田 二郎	36年	◇ 吉田 勝昭	52年	博谷 昌彦
32年	◇ 安西 彰	36年	◇ 宮武 貞雄	53年	竹内 義高
32年	★ 安西 愈	37年	飯間 勝	54年	堀 眞英
32年	◇ 榎本 恵一	37年	鹿庭 清司	54年	◇ 前田 裕弘
32年	◇ 大野 勲	37年	島原 俊二	55年	＊ 遠原 慎二
32年	◇ 片岡 英明	37年	軒原 勝	55年	生駒 真澄
32年	◇ 川田 福造	37年	宮本 浩二	57年	池下 高広
32年	喜岡 達	37年	若宮 利夫	57年	小林 一昌
32年	◇ 佐々木 修	37年	藤岡 孝之	58年	中野 信也
32年	◇ 谷本 清彦	38年	田中 賢一	59年	◇ 二川 正浩
32年	◇ 中村 福市	38年	西尾 久史	62年	荒木 壮
32年	◇ 松原 輝男	38年	森山 泰文	62年	池田 明生
32年	◇ 蓮井 昌雄	38年	淀谷 皓一	平成 8年	◇ 石田 知行
32年	岩崎 智雄	38年	神内 征子	8年	石田 敏恵
33年	◇ 安西 公夫	38年	淺 晴美	16年	平井 啓太
33年	◇ 岩瀬 博	38年	高木 由子	20年	山地 秀佳
33年	小原 清	39年	◇ 池田 政廣	20年	今岡 和弘
33年	木下 弘春	39年	◇ 入谷 稔	21年	河田 大毅
33年	◇ 関 邦義	39年	◇ 大森 正	22年	湯末 宏
33年	◇ 中西 勲	39年	◇ 北條 勇	元講師	森 孝枝
33年	広瀬 好治	39年	◇ 松濱 明貴		森部 聡太
33年	◇ 吉川 俊夫	39年	◇ 横山 征一		
33年	◇ 小畑 和子	40年	太田 政輝		
33年	八木 妃佐子	40年	高橋 正泰		
33年	◇ 小林 紀子	40年	◇ 谷川 生市		
34年	太田 昭義	40年	藤村 茂		
34年	◇ 海面 朗	40年	三木 肇一		
34年	多田 正美	40年	◇ 大谷 美恵子		
34年	◇ 山中 イツ子	41年	西木 茂雄		

★印：支部長
◎印：最高顧問
○印：支部長代行
☆印：副支部長
◇印：理事
＊印：事務局員

	男性	女性	計
来 賓	7	2	9
一 般	100	14	114
21～29歳	3	0	3
20歳まで	1	0	1
新入会員	0	0	0
計	111	16	127

武道館で開催され母校の男・女柔道
部が出場しました。

3月20日「女子団体戦」が行われ、
1回戦で静岡県の「市立沼津」と対
戦したが、1引き分け2敗で、善戦
及ばず涙を吞みました。当日は早朝
より13名（女性2名）の紫雲会東京
支部有志が応援に駆け付け、杉ノ内
さんの「武道館内に響きわたる」力
強いリードで応援しました。

大会前日の3月18日、東京支部の
「安西支部長・常任理事の安西 彰・
宮本氏・柔道部OB久保氏」が宿舎
を訪れ、高木顧問・選手の皆さんと
お会いして激励と東京支部と支部有
志からの「御祝い金」を贈呈致しま
した。（8面に写真掲載）

東京支部長挨拶
いつそうの活動の充実へ布石を
東京支部長 S 32 年卒 安西 愈



「玉藻の浦の明
け暮れに」それぞ
れの想いで通学し
た母校高松商業
高校を卒業し、遠

く離れた関東の地の同窓の集いが東
京支部です。支部の名簿によれば昭
和三（一九二八）年卒から平成二四
（二〇一二）年卒まで実に八四年の長い
年代の卒業生が集っています。この絆
を大切に、親睦交流と、母校との架橋
を目指して東京支部は活動しています。
私が満洲前支部長（昭和二八年卒）
からバトンを受けて二期三年が終わり、
今年の四月から二期目に入りました。
「みんなの東京支部」を合い言葉に、会
員の皆様の協力により次第に支部活動
も活発化して参りました。



紫雲会会長ご挨拶
紫雲会会長 S 38 年卒 真鍋健彦

東京支部の皆様
には益々ご清祥の
こととお慶び申し
上げます。平素は、

支援ご理解を賜り心よりお礼申し上げ
ます。この度の東京支部会報紙「紫雲
会東京」6号発行にあたり一言ご挨拶
を申し上げます。東京支部におかれま
しては、強化した組織の運営を図る為
活発な活動が行われていますが、皆さ
んの積極的な取り組みに対し敬意を表
する次第であります。

高商も今年度で112周年を迎え
た訳であります。平成23年の卒業生
283人を加えると世に輩出した卒業
生は33, 486人を数え国内外を問

からの雨天練習場の建築問題の説明も
あり、活発な意見が出されました。こ
の母校への熱気が支部活動の原点と思
われます。現在支部は、榎本支部長代
行、造田常任理事会議長を中心に、七
つの委員会と、平成二五年の「八〇周
年記念プロジェクト」（吉田勝昭チー
ム長）の組織で活動を展開し、女子茶
話会もスタートしました。

東京支部は、昔の時代には岡内英夫
氏（資生堂社長）などの支部長が個人
的に経費を負担されていましたが、溝
渚支部長時代にみんなの支部のスロー
ガンの下に年会費制に移行しました。
同窓生のみなさんご理解もあり、次
第に定着して参り、今年度は、再度会
費納入のお願いもしましたので、何卒
よろしくお願い致します。また、今年
の七月七日の支部総会に向かって、支
部活動の中心になる年次幹事会も関委
員長の下に拡大充実して参りましたが、
なお未選任の卒業期も残っています。

若い方々の期では、転勤などもあ
り支部活動は困難とは思いますが、ま
ずは幹事の方を中心に同級会の開催の
努力をお願いします。開催が始まった
ばかりで、まだ準備中ですが、

わず経済界をはじめ教育、法曹、医学、
政界、芸術、スポーツなど各界で多く
の方が活躍されています。卒業生の一
人として大変誇りに思いう次第であり
ます。しかし世の中も私が卒業した時
からは経済、政治からはじまり、身近な
ところでも環境の変化が生じています。
しかしその中で先代が残した伝統を守
りながら新しい伝統を創造していかな
ければならないと思います。今年の卒
業式で卒業生に対し、先輩が築いた誇
りと伝統を受け継いでもらうと同時に
これから日々の活躍によって高商の
新しい伝統の創造を訴えました。

期では年々盛んになっており、それが、
支部活動の布石ともなっています。昨
年から支部のHPも立ち上げ、定期更
新しておりますので、是非ご覧下さい。
校歌に「降り来て集える水の峯」とあ
りますように、支部総会にはたくさんの方
方に集まって頂けるように総会委員会北
條委員長で工夫しています。どうか皆
様のご出席の程よろしくお願い致します。

大阪支部長ご挨拶

大阪支部長 S 22 年卒 北村光雄

紫雲会東京支部が会報「紫雲会東京」
6号を発行される事を心からお祝い申
し上げます。会報を連続して発行され
る事は安西支部長の下、東京支部が如
何に充実し、会員皆様が紫雲会東京支
部に在籍する事が誇りであり、楽しい
からだと拝察致します。

大阪支部も役員各位の献身的な運営
で、昨年はゴルフ同好会、麻雀同好会に
加えまして歩こう会が発足しました。こ
の会は女性の参加が多く、京阪神の神
社、仏閣など名所を年2回位かつ歩し
ようと、これからはゴルフ同好会を上回
る会になると期待されて居ります。大
阪支部は今年六月の支部総会で若返り
を図ることになりました。私は支部長に
就任して十七年になります。その間高

人になることを訴えました。ある先輩
の言葉に「伝統と言ってもただ言葉だ
け受け継いでいて、今までの高商をほ
んど知らない。もっと母校を知り高
商がはじまってから引き継がれてきた
何かを私達も受け継ぎ次の世代へ伝え
ていくことが伝統である」と述べられ
ています。この伝統を次世代へ伝えて
いく為に、東京支部の皆様とともに頑
張っていく所存でありますので今後と
もご支援ご理解を賜りますようお願い
申し上げます。

商ご当局、紫雲会本部、東京支部の温
かいご支援・ご指導を頂き、大阪支部
会員のご協力で、ある程度支部運営が
活性化されたと思つて居ります。今年一
月、新年会を兼ねた役員会を開催致し
ました。日頃の多田孝副委員長、池田
幹事長等の努力が実を結び、事務局に
若い三名の女子会員を迎えることが出
来、新年会、役員会が女子会員二十五
名を含む七十名を超える活気溢れる会
になり、六月以降の次期役員候補の選
出が行われ、六月の支部総会で承認を
得て、高商が好きで高商野球をこよな
く愛する熱血の快男子、多田孝君が支
部長になり、人間味豊かで支部運営の
名手、池田幹事長を中心に事務局員も
十名と充実し、支部運営はより活発に
なるものと期待がされます。私は名誉
支部長として生ある限り大阪支部のた
めに微力を捧げる決意でございます。

今年は野球部に優秀な新人が入学し、
昨年より戦力は充実したと高商の校長
として三年間、母校のためにご尽力頂
き、この三月定年退職された奈良計男
先生も、これからは大きな期待が出来
ると喜んで居られました。母校高商が
在る事が東京支部、大阪支部共に団結
し明日に夢見ることが出来ると思いま
す。東京支部の更なるご発展を祈念しま
す。

退任のいあつち

香川県立高松商業高等学校校長 奈良計男

紫雲会東京支部の皆様におかれまし
ては、益々ご清祥のこととお慶び申し
上げます。

さて、平成20年7月の東京支部創立
75周年の記念すべき支部総会に出席さ
せていただいたから、4年が経過いた
しました。歴史と伝統のある高松商業
高校の校長職を拝命し、不安な気持ち
を内に秘め初めて参加した総会でした
が、皆様方に温かく迎えられて緊張の
糸も解け、貴重な出会いを経験させて
いただくことができました。皆様の母
校に寄せる思いの大きさに触れ、母校

によつて結ばれた絆の強さ、懐の深さ
を頼もしく感じたことを懐かしく思い
出します。在任期間中、老朽校舎改築
事業によつて教育環境がハード面にお
いて全面的にリニューアルされました。
また、県立学校の学科改編の一環とし
て、昭和62年以来的実績を有する「情
報処理科」が募集停止となり、平成22
年4月には新たに「情報数理科」が設
置されました。さらに、同年11月には、
学校創立百十周年を祝う記念式典が厳
肅かつ盛大に挙行されるなど、高松商
業が香川の商業教育・情報教育・国際
理解教育の中核校として大きく飛躍し
ていくこうとする時期に校長として赴任
し、その重責を辛うじて果すことがで
きましたのは、ひとえに同窓の皆様方
のご支援があつてのことであり、厚く
お礼申し上げます。

教員生活38年を締め括るに当たつて
高松商業に籍を置くことができました
ことは、この上ない名誉であり誇りと
するところです。本来ならば、拝眉の
うえ、お礼申し上げるべきところであ
りますが、本紙面をお借りしますこと
をお許し願います。

東京支部の益々のご発展、並びに
皆様方のご多幸ご健勝を心から祈念し、
お礼のご挨拶とさせていただきます。

学校だより

香川県立高松商業高校教諭
S 63 年卒 小西裕樹

東京支部の皆さん、先日の高商パ
レー・柔道の全国選抜大会での温かい
ご声援ありがとうございました。今回
は内容も多いため全国で活躍した主
な報告のみをさせていただきます。

夏の全国高校総体において、ヨット
部がセーリング女子FJ級デュエット
競技（団体）で3位、国民体育大会
においても少年女子SS級で村上祐・
大倉愛組が5位、少年女子シーホッ

パー級SRで荻野由貴さんが8位入賞
と活躍しました。国民体育大会では、
他にも鏡原剣志郎くんが弓道少年男
子近の競技で4位、大西敬くんがボ
ウリング少年男子個人で6位入賞しま
した。また、ハンドボール部女子が香
川県チームとして、決勝で地元山口県
に敗れ惜しくも準優勝でしたが、香川
県は全員高商生で臨んだのに対し、他
県は各県の優秀選手を集めての選抜
チームでしたので、これは成績以上に
評価できるものと思われます。春の全
国選抜大会では剣道部男子が団体戦
において、香川県勢16年ぶりのベスト
8という素晴らしい成績を収めました。
文化部では、吹奏楽部が第39回マー
チングバンド・バントワーリング全
国大会において銀賞受賞、そして、珠
算電卓部が第58回全国高校珠算・電
卓競技大会の電卓団体総合競技にお
いて、千頭香苗・三木千春・清水優
希組が、第9回大会以来49年ぶりの
優勝という快挙を成し遂げました。ま
た、三木千春さんは個人種目において
も応用計算競技で優勝しました。

定時制においても全国高等学校校定
時制通信制課程総合体育大会剣道競
技、男子個人の部で飯沼勇樹くんが3
位入賞を果たしました。また、佐藤幸
子さんが、第59回全国高等学校校定時
制通信制生徒生活体験発表大会にお
いて、「70歳の高校生」というテーマで、
みごと文部科学大臣賞を受賞しまし
た。なお、発表内容は高松商業の定時
制HPで見ることができます。心打た
れる内容ですので、皆さんも二読く
ださい。このような結果を見ると香川
県で、優勝して当然のように思われる
でしょうが、近年、各競技において私
立学校が力を入れており、勝つことが
厳しい状況になっています。その中で
も野球部が秋季大会優勝、サッカー部
が新人戦優勝と、今年の活躍を期待
させてくれる成績を残してくれました。

紫雲会東京支部 平成24年度 予算案			
(期間:平成24年4月1日～平成25年3月31日)			
収 入		支 出	
前年度繰越	792,626		
総会会費	800,000	総会費用	1,128,000
男 @7,000×100名	700,000	事務消耗品・通信費	60,000
女他 @5,000×20名他	100,000	旅費交通費	150,000
お祝い金	30,000	慶弔	40,000
役員年会費	418,000	振込負担金	45,000
一般会費	361,000	会議費補助	444,800
会報賛助金・広告代	272,000	役員会(1回)	82,500
(総額400,000-前年度入金128,000)		常任理事会(1回)	25,300
本部補助金	300,000	年次幹事会(1回)	77,000
		各委員会(24回)	210,000
		女子茶話会	50,000
		各委員会助成金	40,000
		会報発行費	311,100
		HP経常費用	60,000
		事務局費	50,000
		基金 80周年記念	50,000
		予備費	50,000
		次年度繰越	544,726
計	2,973,626	計	2,973,626
*役員会・常任理事会・年次幹事会の出席者は会議費の半額と交通費全額を負担			
*常任理事会は2回開催、補助は1回のみ			
*各委員会の出席者は、交通費全額を負担			
*女子茶話会の出席者は、@500超過分と交通費全額を負担			
<総会費用> 料理 @5,250×122名 640,500 ドリンク @1,575×126名 198,450 サンドウィッチ 13,150 来賓土産代 17,000 懇談軽食代 13,000 小計 882,100 演奏代(備考) 今回は中止とする 0 ビンゴ景品 30,000 会員作品展 60,000 総会案内費用 150,900 その他 5,000 合計 1,128,000 <会報発行費> 用紙・印刷代 296,100 取材費 15,000 合計 311,100 (備考) 封入費用、発送費、アドレスシールは総会費用の総会案内費用として計上 <80周年記念基金> 累計 150,000			

まず、支部の文化的活動として、総会時に会員作品展を開設し、会員自ら制作した絵画、写真、書道、工芸等を会場にお持ち寄りいただき、その作品を展示します。丹精込めた作品に必ずや感動されるに違いありません。この展示会は東京支部独自

今年度も皆様にご満足いただけますよう、いろいろな趣向を凝らしています。

総会では皆様にお知らせすべき事項をご報告の後、前年度の会計報告、監査報告、本年度の役員人事、本年度予算、会則・細則の変更等をご審議いただきます。総会の式次第では、概ね、校歌斉唱、挨拶、報告・審議、表彰、卒50年トーク、乾杯、懇

談、ビンゴゲーム、万歳三唱、閉会となり15：30終了見込みです。

最後に、皆様にお願いがござい

平成24年度 東京支部定期総会のご案内

今年度の東京支部定期総会を7月7日(土) 12：00よりサンミ高松七丁目店に於いて開催しますので、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

のものです、他の同窓会では類例がないようです。次に、今年度の名譽ある表彰者としてS37年卒 小田良三さんが「囲碁活動」でその偉業を称えられ、総会で支部長より表彰されます。お楽しみとして、恒例になつた支部独特のビンゴゲームを今年も実施します。役員多数からのご寄贈もあつて、沢山の賞品を用意します

ので、皆さん！ご期待下さい。本年も、卒業後50年(S37年卒)のトークショウがあります。昨年に続く新企画です。

総会では皆様にお知らせすべき事項をご報告の後、前年度の会計報告、監査報告、本年度の役員人事、本年度予算、会則・細則の変更等をご審議いただきます。総会の式次第では、概ね、校歌斉唱、挨拶、報告・審議、表彰、卒50年トーク、乾杯、懇

談、ビンゴゲーム、万歳三唱、閉会となり15：30終了見込みです。

最後に、皆様にお願いがござい

平成24年度 事業計画

本年度は下記の活動計画を推進します。

1. 組織の充実

(1) 常任理事候補 三村圭介、太田郁治郎、石田知行 3名
理事候補 久保祐三、田所幸子、杉本伊佐子、末沢晴代、鈴木康、西木茂雄 6名

(2) 名簿委員会はその役割を終え、廃止する。後は総務委員会が維持する。

(3) 役員変更

・HP委員長に三村圭介さんが就任(榎本恵一さんは委員残留)
・会報副委員長に北條 勇さんが就任

・80周年PT副委員長に北條勇さん、大谷美恵子さんが就任

(4) 定例会議 総会、役員会(1回/年)、常任理事会(2回/年)、各委員会(随時/年)、表彰委員会(1回/年)、年次幹事会(1回/年)

2. 親睦・交流事業

本事業を発展・強化するため、助成措置を引き続き講じる。

(1) バス旅行 「東京スカイツリーと会食を楽しむ」 10月24日実施。

(2) ゴルフ 「第7回東京支部ゴルフ大会の開催」 10月3日実施。

(3) 年次同窓会 年次幹事主導で開催する。支部はこれを積極的に推奨する。

(4) 東京香川県人会 支部はこの総会参加を会員に対して積極的に推奨する。

3. 広報活動

(1) 広報紙「紫雲会東京」 6号紙を発行する。

(2) HP 本年は1年間の実績を検証し、引き続き新たな情報発信に努める。

4. スポーツ・カルチャー事業

(1) 表彰者の発掘と顕彰
(2) 会員作品展の開催(絵画、写真、書道、工芸等)

(3) 会報による「俳壇・歌壇」の充実(川柳、俳句、五行歌等)

(4) 母校の団体スポーツ東京大会がある場合には積極的に応援をする。(絆強化)

5. 基盤整備事業

(1) 卒業生、教諭OBによる支部会員加入の促進 (OB活動の活発化)

(2) 会員の中から理事就任を推奨し、拡充に努める。

(3) メインテナンスの充実による会員名簿の整備

6. 総会の追加議案

最重要事項のみ(役員、予算、実績、監査、最重要事項) 総会で審議し、他は役員会で審議する。会員の多くの皆様より、総会決議事項を少なくして、極力総会では懇談時間を多くとってほしいご意見があり、三月九日の役員会でも、この事を申し上げました。

役員会の正式な議案としてはとり上げていみせませんでしたので、総会で審議して頂きます。

7. 支部定期総会の開催

平成24年7月7日(土)に開催する。

平成24年度第7回 ゴルフ大会のご案内

委員長 S32年卒 片岡英明

本年も恒例の紫雲会東京支部ゴルフ大会を下記の要領で開催しますので、卒業年度、男女を問わず大勢ご参加いただきたくお願い申し上げます。

記

1. コンペ名 第7回紫雲会東京支部ゴルフ大会

2. 日 時 平成24年10月3日

(水) 集合 9：00

3. 会 場 千葉県 CPGカン トリークラブ

4. 参加費用 11,000円 (プレー費 8千円、参加費 3千円)

5. 表 彰 支部長杯等多数

6. 申し込み ①幹事片岡英明 TEL&FAX 0436-23-7839

②支部事務局 漆原慎二、サンミ高松

電話 03-5568-3320

Fax 03-5568-3310

締 切 9月15日

7. 募集案内 会報「紫雲会東京」6号に募集案内を掲載

総会時(7月7日)、出席者全員に勧誘します。

8. その他 7組(28名)で予約をしたと考えています。

参加しませんか!

「東京スカイツリーとお食事会」

副委員長 S40年卒 大谷美恵子

本年度の東京支部日帰りバス旅行は、近場の散策と美味しい食事をセットにしたものを企画いたしました。行楽と食欲の時節到来!今回は行楽地人気度ナンバー1の東京スカイツリーに上り、下界を眺望し、帝国ホテルでお食事を楽しむ趣向でご



総会インタビュー

ざいます。皆様1年に一度の高商OB懇親旅行です。奮ってご参加下さい!

実施日 10月24日(水)

9：50出発、JR浜松町駅バスターミナル16：00到着

行先 東京スカイツリー及びその周辺：観光バス利用

会費 11,000円(バス代、昇降代、食事代を含む)

集合場所 JR浜松町駅前のバスターミナル

会費納入 当日現地にて

申込み先 親睦・交流担当40年卒 ①大谷美恵子電話 042-743-9771

②支部事務局55年卒漆原慎二、サンミ高松電話 03-5568-3320

申込み 7月20日まで

募集案内 会報の他、総会時に再度詳細をご案内いたします。

注意事項 この計画は5/7月末までの売り出しパンフレットから引用したものです。8月以降については未発表で、若干変更が起り得る場合があります。

会員作品展に ようこそ

作品展責任者 S 32 年卒 谷本清彦

総会会場における会員作品展は、平成二十年の東京支部創立75周年記念事業として発足し、以後順調に継続開催され今回第五回展を迎えます。この機に作品展責任者として、経緯を振り返ると共に出品と観覧についてお願いをしたいと思います。初回の展示は会報による作品募集がなく、壁面展示の絵画・写真に限定し、当年度芸術部門で表彰の昭和31年卒長尾利之氏の絵画を中心に絵画・写真の出品者を個別に打診して計七名一八点の出品展示でスタートしました。第二回展以降は会報に「作品募集要項」及び前回展の「作品展示風景」を掲載し、応募の勧誘と作品展の状況をお知らせしています。第二回展から毎回大阪より昭和32年卒岩崎智雄氏が書道掛軸を持参総会に出席のうえ特別出品いただき展示が整い感謝しています。第三回展から立体作品である工芸部門の陶芸が出品され、前回展では版画、工芸部門の木工・手芸と出品部門が拡大し、合計十一名二四点の出品状況となりました。なお、前回は「特別展示」として平成二二年の高商創立百十年記念式典・行事及び紫雲会本部総会の写真展示とパソコン映写を行い、奈良校長、真鍋会長ほか高松からの来賓にもご覧いただきました。また、宮本洋子さん（S 38 年卒）のアジアマstars陸上三種目金メダル獲得の写真も展示しました。今後、皆様に話題として観覧いただける特別展示がありましたら実施したいと思っています。出品作品は、受付ロビーの壁面・展示台及び会場内パネルに展示し、総会会場の雰囲気を高揚させております。同窓会会場での会員作品展は珍しく好評につき

継続実施の方向であります。

現在の総会会場では、展示スペースに制約がありますが、展示については工夫し対応する意向であります。

○作品出品のお誘い

総会当日出品者は作品を持寄り全員で展示し、総会終了後は各自で撤去搬出する方式ですが、日頃の制作成果である作品の発表のひとつの場として、気楽にご応募ください。

なお、「作品募集要項」は会報最終面及び本年から紫雲会東京支部ホームページにも掲載しています。毎年三月頃に更新しますのでご確認ください。

○作品観覧のお願い

会員作品展の出品者は、総会当日朝作品を持参し展示しています。ご出席の皆様にご観覧いただくことで制作の励みになりますので、ご出席の際は是非ご観覧いただき、出品者は会場にいますので声をお掛け願います。

事務局だより

1. 直近1年間に逝去された方々を謹んでお知らせ申し上げます。
故人のご冥福をお祈り申し上げます。
昭和14年卒 田岡義計 様
昭和15年卒 大森正樹 様
昭和28年卒 黒子忠則 様
昭和29年卒 浜田憲三 様
昭和31年卒 藤村政治 様
昭和31年卒 松原嘉毅 様
昭和37年卒 武田英彦 様
昭和42年卒 川本人士 様
元教諭 亀山虎三郎 様
2. 本年度（平成24年度）年会費、寄付金は6月末までにお支払下さるようお願い申し上げます。



東京香川県人会だより

東京香川県人会理事兼幹事 S 32 年卒 榎本恵一

東京香川県人会として活動している内容を3つ報告しておきたいと思っています。

一つ目は、昨年11月7日の第93回定期総会です。毎年、県知事、県議会議長や、国会議員、地元市長の出席の来賓者も多く郷土出身者との懇談も多くみられ、年1回の恒例となっています。出席者は328名で、来賓を除きますと309名でした。アトラクションは、海外でも活躍されているゴスペルを得意とされている藤岡友香さんと、声量の豊かに圧倒されました。勿論、東京会館のシェフが腕によりをかけての料理で満足することが出来ました。しかし、最後は、煮干しだしの、さぬきうどんを食べて、ふる里の味を思い出します。映像紹介で、驚くようなTVコマーシャル、「うどん県は、香川県」が放映され拍手喝さいでした。

高松商業OBは（今回より出席者ハガキで同窓会明記）25名であり、高松高校OB、丸亀高校OB、に次いで3番目の出席者数でした。実際は他校のOBの方もお誘いし32名の出席でした。皆さまのご協力を感謝申し上げます。

平成24年の定期総会11月5日（月）のアトラクションは、高松商業高校昭和59年卒、京都産業大卒のシャンソン歌手、別府葉子さんが出演されます。母校出身でシャンソンの訳詞家・歌手で活躍されている貴重な存在です。是非、皆さまの応援を宜しくお願い致します。

（別府葉子ホームページ <http://www.beppyoko.com/> ブログあり、歌声聴けます）
二つ目は、「麻布十番 さぬきふ

れあいコンサート」のことです。

香川県出身で将来音楽家を目指す若者たちの活動の場を広げ、生

演奏や歌を通じて郷土出身者の成長を応援して頂く目的で、三田の「さぬき倶楽部」で実施しており、平成24年度は3月、5月、7月、9月、11月の5回で、チケットは東京香川県事務所で扱っていますが、毎回2,000円のチケットは現地でも購入できますので、是非、若手音楽家を応援してほしいと思います。尚、

昨年の4月には高松商業高校出身のninkaさん（平成16年卒、本名溝渕美佳）のポップロックの唄声が元気を与えてくれました。

三つ目は、平成24年度の香川県の重点方針です。

（1）足腰が強く競争力の高いものづくり産業の育成
（2）香川の大地と瀬戸内の恵みを生かした攻める農林水産業への転換

東京香川県人会第94回定期総会の御案内

今年も「東京香川県人会総会」を盛大に開催いたします。香川県産食材（オリーブ牛・オリーブはまち等）を使った美味しいお料理や香川県産のお酒をご賞味いただけます。たくさん的高松商業高校のOB・OGの方々に参加していただけることを願い、心よりお待ちしております。

開催日時 平成24年11月5日（月）18時
会場 東京會館 9階「ロズルーム」（千代田区丸の内3-1-1）
次第 総会、懇親会、アトラクション、お楽しみ抽選会、さぬきうどんコーナーなどお楽しみ企画が盛りだくさんです。 ※全員に香川県のお土産を用意しております。

今年のアトラクションには、高松商業高校ご出身のシャンソン歌手で訳詞家の別府葉子さんをお招きしています。素敵なシャンソンをお楽しみいただきたい、盛大なご声援をお願いしたいと思います。

参加費 7,000円（学生 3,000円）

開催案内は、9月中旬に送付する予定です。ホームページにも掲載します。
<http://www.pref.kagawa.jp/tokyo/concerttop.htm>

案内を希望される方は、東京香川県人会事務局へご連絡ください。
東京香川県人会にご入会いただくと、毎年ご案内を差し上げます。
問合せ先：東京香川県人会事務局
TEL：031521219100

（3）世界に愛される香川印をめざすブランド化・販売促進

（4）世界を魅了する観光立県香川の実現

（5）未来と世界をつなぐ交通・情報ネットワークの整備
重点施策をこうじ、香川県の差別化を目指しています。

うどん県。

それだけじゃない香川県

香川県東京事務所長 松尾恭成

紫雲会東京支部の皆様には、日頃から県政に対してご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

皆様ご承知のとおり、昨年10月、香川県は「うどん県」に改名、県出身の俳優、要潤さんと木内晶子さんを「副知事」に任命するという意表をついたプロモーションで、県のホームページへのアクセスが集中し、多くのマスコミに取り上げられるなど大きな反響を呼びました。知名度

の高い「さぬきうどん」を入り口として、豊かな食、風光明媚で穏やかな自然、現代アートなど香川の魅力をさらにPRしていこうと「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトを推進しています。

これまで、都内のホテルでの「さぬきうまいもん祭り」東京開催のほか、ネットショップでの県産品ポータルサイト「LOVEさぬきさん」開設、航空会社と提携した魅力発信などに取り組んできたところです。

新橋のアンテナショップ「香川・愛媛せとうち旬彩館」でも、「さぬきうどん」だけじゃない香川県の特産品の販売とあわせて郷土料理などを提供しています。今年、うどんの味を改良するとともに、香川の旬の食材を使った季節メニューを充実させましたので、是非足をお運びください。

東京事務所では、今年3月から、旬彩館からのお知らせや香川のニュース、都内での香川県や県出身者のイベント情報など旬の情報をも「さぬきの応援団@東京メールマガジン」として香川県ゆかりの方々への配信を始めました。配信を希望される方や配信を希望する情報をお持ちの方は東京事務所へご一報ください。TEL：03（5212）9100

また、東京香川県人会では、各校同窓会との連携を強化し、活動の活性化を図っていますので、この機会に皆様のご入会をお待ちしています。また、今年の定期総会は、11月5日（月）の18時から、丸の内の東京會館で開催します。皆様お誘い合わせのうえ、ふるつてご参加ください。

最後になりましたが、紫雲会東京支部の皆様におかれましては、今後とも、郷土香川の応援団として香川の魅力発信や活性化にお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

東京支部
俳壇・歌壇

○現代川柳・創作

作者（32年卒 安西 愈様）

- ・背広脱げば後期高齢者にかわる
- ・桜満開どこかに悲しみ秘めている
- ・ふるさとの沸き立つ春へ
- ・バス降りる
- ・仲直り一緒にうどん屋に入る

・もう一人の自分殺している平和

作者（33年卒 吉川俊夫様）

- ・老拒む母の自慢の豆料理
- ・原発で掻き回されて国暑し
- ・夏料理細めで軽き箸に替え
- ・知らぬ木に知らぬ実たわわ夏旺ん
- ・紫雲会どうもどうもで名が出ない
- ・名札をまともにもみるわけにいかず
- ・水溜りあればかあるく飛び越えて
- ・上下の空にはさまれてみる
- ・いつか来る言われていたがいざ来るとあまりの事に
- ・なすすべもなし

作者（36年卒 吉田勝昭様）

- ・抱きしめる勇気がなくて握手する
- ・原因が判らぬときは加齢です
- ・拍手鳴りあわてて起きるコンサート
- ・玄関は一夫多妻が住んでいる
- ・遺産分け母の介護は譲り合い

○五行歌

作者（35年卒 福家貴美様）

- ・小松菜の
- ・茹で汁を
- ・足場に使うご夫婦の
- ・こぼれる笑顔
- ・余震いまだ止まず
- ・稲刈るトラクターの
- ・唸りが聞こえるような
- ・新潟平野
- ・「MAXとき」の
- ・ひたすらめざす日本海

現代川柳・変わった教頭の誘い

S 32年卒 安西 愈

ある不安とにかく連絡船が出る

この句は、私が昭和三十九年に転勤で上京する時、宇高連絡船の上で見送りの友人達とのテープが次々と切れ、船が動き出した時の情景である。今年四月の関東弁護士連合会の機関誌の趣味の欄に『現代川柳』作句五五年の歩み』と題して依頼されて書いた随想の中の一句で、評判の良かった句である。

役人の子はにぎにぎをよく覚え

といった江戸時代の古川柳に端を発する伝統的な風刺、軽み、ユーモアといった川柳とは少しちがうジャンルで、「現代川柳」という人間の心の内面を表現する短詩形で文芸としての川柳であると、高商在学時代に国語の教師兼教頭であった森一男先生に教えられた。

私は、高三のとき病気で一年休学したが、療養中に月一回四国新聞が作品募集をしている川柳部門に投句し入選した。そこに高商三年とあったので、森教頭の目にとまり、当時顧問をされていた若人クラブという川柳部に勧誘された。本業は「鬼やん」こと植田裕先生の速記部であったが、そちらにも顔を出した。私の「現代川柳」歴は、この時から継続し、同人誌に所属し、以来五五年になる。

森教頭は、鶴のごとく瘦せて背が高く、勤厳実直を絵に描いたような先生であるが、もう一面では森西島と号し、「道頓堀の雨に別れて以来なり」（田辺聖子著）の主人公の岸本水府が主宰する「番傘」という川柳誌の同人で、香川県では「風車」という川柳誌を編集発行されていた。

森教頭は、「先生と呼ばれるほどの馬鹿でなし」という古川柳を引用して「さて私も先生の一人ですが、私は学校の先生です。先生もその上に『学校の』ということばがつかますと、とたんに価値が下がってしまいます」（昭和三六年風車四月号）といったユーモアのある文を書き、学校では内心反対の決裁も、ハンコを逆さに押して、黙っ

て校長にあげる人で、川柳句会には奥様のかね子さんと仲良く出席し、句は奥さんの方が人気があった。

母の留守母若かりし写真見る森 西島

夫婦ともしゃべりつかれて黙り込み

質問に来る女生徒の薄化粧 西島

検閲を受ける気家計簿そこへ置く かね子

ささやかな散財母と寿しをとる かね子

森教頭のもう一つの趣味は、「えんまさん像」の写真をとって歩くことであった。

35年次卒

「節目の同窓会」ご報告

S 35年卒 久保 祐三

平成23年度の漢字は「絆」が選ばれました。この絆に就いては平成22年の東京紫雲会「安西支部長」のご挨拶の中でも紫雲会という母校の絆で結ばれた者として会員間の親睦と交流について述べられ、懐旧の絆を深めたいと言われています。断つ事が出来ない結びつきの絆は目には見えませんが、紫雲会や高松商の絆はあらゆるところで出会う先輩や後輩との繋がり強くさせてくれ、励まされ、教えられ、明日への活力を与えてくれます。

S 35年卒のエピソードとしては、S 34年高商祭前日にプラスバンドを先頭にして部活の公式ユニホームを着用した市中パレード（三越前から丸亀町・南新町・常盤街を行進、200余名参加）を挙行してお祭や部活の活動を市民に紹介した高松商としては初めての試みでした。又、体育祭も運動場から屋島陸上競技場に移して秋空のもと全校生徒1,100余名の大会育祭を実現しました。これらは生徒会の役員及び35年次の委員を中心とした実行委員会により実現したもので古き伝統に新たな歴史を加えました。このような絆を作った35年次卒も卒業から50年余：最近の同窓会は卒50周年を祝した学年同窓会が平成22年4月に高松で開催され、東京地区ではS 35年卒が31名、高島、宮本両理事が中心となり平成13年10月還暦

高松商業を

卒業して五十年

S 36年卒 田所幸子

人生の折返し点、還暦から十年、古希を迎えました。と同時に高商卒業五十年と聞いて、長い時が流れていたことに「光陰矢の如し」を、実感いたしました。

目の前ばかり見ている私ですが、振り返ってみると、高商時代は青春時代の入口、生意気盛りでした。が、先生方は、一人の社会人に成長する事を願って、日々楽しくまた厳しく教育して下さっていたのでした。だからこそ、たくさんの楽しい思い出が刻まれた高校生活が送れたのだと、しみじみ感じております。ありがたい三年間でした。

三十六年卒の私たちは、毎年途切れることなく東京三六会として同窓会を開いて下さっております。いつもお世話して下さいている方には、深く感謝申し上げます。お互いいた二つ、高松商業卒業という絆で結ばれての五十年、私にとっては友人というより、仲間という表現がピッタリです。これまで順風満帆に歩んでこられた方もいらっしやるかも知れませんが、私は、一つ壁をまた一つ、一生懸命乗り越えながら今日まで来られたと実感しております。

一年中穏やかな美しい瀬戸内の海や島々、どこかほっとできる環境の故郷で育っております。十数年前、初めて瀬

戸大橋を渡った時、瀬戸内の光景に涙が出るほど感動したことが、よみがえってまいります。申し訳ないほどの自然環境のなかで過ごせた青春時代、五十年過ぎ去つてみると、高商時代の三年間は、私にとって人生の一つの礎となっております。これからも生涯青春を目標にして一生懸命歩んでまいります。

紫雲会は全卒業生の会、会の発展は母校の発展、ますますの隆盛を祈ってまいります。

足どり①

二歩前進一歩後退

支部長代行 S 32年卒 榎本恵一

何回かお断りをしましたが、造田さんより勧められ、現役の会員に役立つ事がある筈だから原稿書きをして下さい。と半ば強要されたと言うと、会報委員長の造田さんの立つ瀬が無いとも思いますが、第1号会報発行のとき、苦労した仲間でもあり大変に努力をされ、手に塩をかけて会報発行までこぎつけた造田さんの依頼にはお応えしないと申し訳ないと書き始めています。

自分で商売をする目的をもつて、高商を選び、親の反対を押し切つて3年生の時、就職組に変わり、昭和32年に卒業して、敢えて大阪・船場の衣料品卸問屋に丁稚奉公をし、年功序列の厳しい上下関係の中から、基礎、躰等を教えられました。この5年間は私にとって繊維の基礎知識、川上情報、例えば産地やメーカー情報等得るものが多くありましたし、精神修養にもなったと感じております。問屋修業を済まし、次は小売業の知識・技術を得るためどこかの小売業で体験するため転職をしようと思つていた時に、船場時代の先輩より、豊中市に衣料スーパー「シロ」という所があり、大変な勢いで成長しているとの連絡で、早速、見学、正式に入社試験を受け昭和37年6月に採用されました。シロはその年の秋から本格的なチーンストアとして出店するために、従業員募集の採用をしていた時に巡りあった事になります。野村証券大阪支店に勤務

していた長尾勝さんとは高校時代から交流があり、「榎本を見ていると不安だ。俺の言う事を二つ聞け」といって長尾さんより渡されたのが、当時、東大助教授の坂本藤良さんの「近代経営学入門」の本と、「日本経済新聞は、毎日読め」と言われた事です。転職をする私を見ていてこのままでは大成しないと感じていたようです。本は徹夜で読み、鳥肌が立ちました。今まで大学へ4年間行くのであれば、その期間早く商売を覚えたほうが良い。と思っていただけに、その本の中に出てくる「科学的管理法」や「人間関係理論」・賃金体系理論の「ハルシープラン」・「スキヤンロンプラン」等々の知識や技術論は初めて見る言葉であるし、その内容は非常に新鮮なものでした。ここで初めて大学に進学しなかったのは失敗であったのかなー、と深刻に考え出しました。しかし、いまさら考えてもどうにもならない、と1か月位仕事に取り紛れて考える事から逃避していたと、今考えるとそのように思います。でも仕事に夢中になっているときは良いが、一段落すると気持ちが落ち着かず、はつと気づいたのは、知識が無いのであれば、あるようにすればよい。そのためにはまず本を読み知識を吸収することだ。これも科学的管理法の5W1Hの手法で、いつの間にやら体内化していました。何を、いつ、どこで、どういう理由で、誰が、どういう方法で、と考え出していました。勿論、私が、仕事が終わった時間で、仕事場で・寮で、より以上の管理技術を会得するために、古本屋で本を購入する。梅田の地下商店街に万字屋書店という古本屋があり、そこで格安の経営に関する本を購入する事から始まりました。当初は、乱読でした。しかし、体系化した本の読み方ではありません。給料の安い私にとってはいくら独身といつても新刊書は高く手が出ませんでした。もう一つの日本経済新聞は会社で購読していましたので毎日、仕事が済んでから、意識的に読み出しました。今まで経済の動きや、経営に関心であった時と比較すると、曲がりなりにも毎日読んでいると大きな流れが漠然と分かるような気持ちになり、継続の大切さを感じました。（以下次号）

○絵画 出品点数 3点以内
大きさ 30号まで

○写真 出品点数 3点以内
大きさ 全倍まで

○書道・版画・工芸等 出品点数・大きさ 相談

申込期限 6月23日(土)

申込方法 左記へFAXまたはTEL・絵画 片岡英明FAX/TEL 0436・23・7839
写真 中西 勲FAX/TEL 042・592・7407
書道・版画・工芸等 漆原事務局長に確認ください。
TEL03・5568・3320

(注) ①額装・パネル等の寸法通知のこと
②多数応募の場合、展示数を調整させていただきます。

搬入 7月7日(土) 午前9時
〒104-0061中央区銀座7-13-120
サンミ高松7丁目店
TEL03・3546・8182

(注) ①宅急便利用の場合 右記へ6日(金) 13時配達指定
②吊下げひも取付けのこと

展示 搬入後出品者全員で実施
撤去 総会終了20分後各自搬出

会員作品展 作品募集

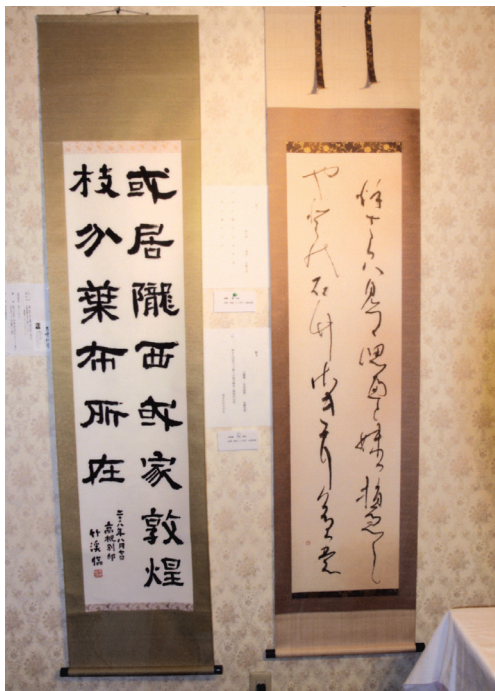


平田 豊氏「ローマのあかつき」



写真展示 4名 11点

平成23年度 東京支部展示会風景



岩崎 智雄氏(S32年大阪)



平田 豊氏(S38年)ローマ在住画家



谷本 清彦氏(S32年)



紫雲会東京支部会員作品展

長尾 利之氏(S31年)



関 邦義氏(S33年)



中西 勲氏(S32年)



片岡 英明氏(S32年)



安西 公夫氏(S33年)



小林 紀子氏(S33年)手芸
柴原 昇氏(S33年)木工



(左)若宮利夫氏(S37年)(右)片岡英明氏(S32年)

スポーツ情報



第34回全国高等学校柔道選手権大会 日本武道館



熱烈応援中の紫雲会東京支部の皆さん



高校バレー全国大会で奮闘中の高商チーム(右)